

## 令和元年度 第1回 花巻市博物館協議会会議録

### 1 開催日時

令和元年8月28日（木）午後1時30分～午後2時30分

### 2 開催場所

花巻市博物館 講座体験学習室

### 3 出席者

#### (1) 委員7名

佐藤由紀夫委員（会長）、浅沼昭男委員（会長職務代理者）、佐藤努委員、佐藤洋子委員、畠山義範委員、平野榮一委員、阿部茂巳委員

#### (2) 事務局（博物館）5名

佐藤勝教育長、高橋信雄館長、晴山弘之副館長、滝浦博之管理係長、小原伸博学芸係長

### 4 議題

- (1) 平成30年度事業報告について
- (2) 令和元年度事業計画について

### 5 議事録

（事務局 晴山）

委嘱状の交付ということで、協議会から石鳥谷中学校の佐藤校長先生に任用をお願いしております。ここで委嘱状を佐藤教育長から交付させていただきます。よろしくお願いいたします。

（佐藤教育長）

お願いいたします。

（佐藤努委員）

よろしくお願いいたします。

（事務局 晴山）

それでは開会前に皆さまにご報告がございます。

本協議会の成立要件です。花巻市博物館管理運営規則第10条第2項におきまして、半数以上の委員の皆さまが出席しているということが要件となっております。本協議会でござい

ますが、10名の協議会委員さんのうち、3名の方が欠席となっておりますが、7名の方が出席いただいております。本協議会は成立いたします、ということをご報告させていただきます。

それでは、これより令和元年度第1回花巻市博物館協議会を開催いたします。はじめに高橋館長からご挨拶をさせていただきます。

（事務局 高橋館長）

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。当博物館は開館15周年を迎えております。2004年4月に開館いたしまして15年経過しております。それを記念いたしまして、今年は開館15周年記念特別展として「発掘された日本列島2019」を開催しております。これは文化庁が主催する事業でございまして、当館では2004年に開催しておりますので2回目です。岩手県では4回目、県立博物館で2回、その後の2回はこの博物館でということで、全国を巡回する文化庁が主催して、毎年最初は東京の江戸博を出発点として、江戸博からここにすべて持ち込まれて、この後、青森の三内丸山遺跡、その後、名古屋、それから九州の福岡という順番で回る展示会でございますが、お陰様で二回目の開催をすることができまして、今日は天候があまりよくないのですが、多くの方々にきていただいております。それから、この博物館は15周年ですが、来週からICOM（イコム）世界博物館会議というのがあります。私はイコムと言っていました、今年はいコムと多く言うものでどうしてだろうと思って調べたら、アイコムは英語読みで、イコムはフランス語。元々は、本部がフランスにあるのでイコムイコムと言っていました、今年京都大会はアイコムと言っているのだそうです。何だか可笑しいような気もしますが、会議が来週から始まるのですが、文化を繋ぐミュージアムというのがトータルのテーマになっています。博物館が社会にどういう貢献をできるかという事を、1週間にわたって議論していく。文化財は保存とか活用など色々な議論がされておりますが、博物館が社会にどういう役割を果たしていけるのかというようなことを、世界中から140か国加盟している大きな組織で、日本で開催されるのが初めてでございますが、来週から京都で開催されるということです。これをけいきにまた博物館が、どういう役割を果たしていけるのか、我々自身も考えていきたいですし、今後博物館がそういう形で注目される事も我々もきちんと受け止めたいと思っています。委員の皆様の様々なご意見を頂戴しながら、より良い博物館・ひらかれた博物館というのをどうしたらいいかというのを模索していきたいと思っております。様々なご意見を頂戴いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局 晴山）

ありがとうございます。ここで博物館の職員も若干変わっておりますので、紹介させていただきます。

(事務局 高橋館長)

館長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

(佐藤教育長)

教育長の佐藤でございます。今回お世話になっております。館長さんからお話ありましたように、15 年目ということで職員も頑張っていると思いますが、もっと市民に親しまれどんなサービスが出来るのか、それぞれのご専門の立場から今日は沢山の意見があればと思います。今日はよろしくお願いいたします。

(事務局 滝浦)

管理係長の滝浦と申します。4 月からお世話になっております。よろしくお願いいたします。

(事務局 小原)

学芸係長の小原と申します。よろしくお願いいたします。

(事務局 晴山)

わたくし 2 年目となります、博物館の副館長をしております、晴山弘之と申します。よろしくお願いいたします。

それでは佐藤会長さんから委員さんたちも自己紹介を時計回りにお願いいたします。

(佐藤由紀夫会長)

会長を仰せつかっております、岩手大学で考古学と博物館学を担当しております。佐藤です。よろしくお願いいたします。

(佐藤努委員)

今年から石鳥谷中学校でお世話になっている、佐藤努と申します。よろしくお願いいたします。

(佐藤洋子委員)

花巻市地域婦人団体協議会の代表で出席しております。今年で 2 年目になります。博物館について、少しずつ詳しく覚えたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(畠山義範委員)

畠山義範です。花巻史談会からきました。今年で 2 年目です。よろしくお願いいたします。

(阿部茂巳委員)

花巻市文化財保護審議会の阿部です。よろしくお願いいたします。

(平野榮一委員)

東和地区教育振興協議会の代表と言うことで名簿に記載されていますが、現在は引退しています。東和代表の平野榮一と申します。よろしくお願いします。

(浅沼昭男委員)

大迫地区の浅沼昭男と申します。よろしくお願いします。

(事務局 晴山)

ありがとうございました。それではさっそく議事に入らせていただきます。議事の進行は佐藤会長さんをお願いしたいと思います。

(佐藤由紀夫会長)

では議事に移ってまいります。今回から新たに委員になられたかたもいらっしゃいますので、改めてこの協議会の目的について少しだけ確認をさせていただきます。他の委員の方はご承知のことと思いますが、博物館法第 20 条に規定されている委員会です。博物館法第 20 条は、館長の諮問を求めに応じて意見を述べる会であります。何かを決めなければいけないという会ではありません。求めに応じて忌憚なきご意見質問をお願いします。最初に(1)です。平成 30 年度事業報告について事務局からお願いします。

(事務局 小原)

ご説明いたします。資料の 1 ページから 3 ページまでは省略させていただきます。資料 4 ページの博物館事業の概要から説明させていただきます。

#### (1) 調査研究活動

当館の学芸員及び学芸調査員が、それぞれ個別に設定したテーマに基づいて調査研究活動を行っています。花巻の考古に関しましては、花巻城の研究、三の丸遺跡における遺構・遺物の検討と言うことで、お渡ししました研究紀要第 14 号に掲載されているものになります。その他には岩手県における古墳時代・平安時代の赤彩土器研究ですが、今年も研究を続けております。花巻の歴史についてですが、「安倍玄蕃」と題される安倍小原氏系図に関する研究ということで平成 30 年度東和歴史講話で発表しております。他に松川家文書の調査を調査継続しております。その他に日記資料を中心とした斎藤宗次郎関連資料調査研究をしています。花巻の美術工芸に関しましては花巻人形の色彩分析調査としておりまして、東北芸術工科大学のご協力のもと、色彩の分析を調査しております。

#### (2) 資料収集活動

寄贈された資料は記載されているとおりとなっておりますので、詳細は省略させていただきます。

### (3) 展示活動

#### 1 期間展示

期間展示は展覧会に関連した資料を紹介しております。鷹頭御陣太刀をはじめ、湯ノ沢焼まで展覧会に関連した資料を紹介しました。

#### 2 展覧会

テーマ展「花巻人形～千紫万紅～」

平成 30 年 2 月 17 日から 5 月 6 日まで開催しております。これは平成 29 年度から継続されているものですので展示内容や展示構成は省略します。関連事業として館長講座・ミュージアムコンサート・展示解説会・花巻人形絵付体験・篠笛山口流演奏会・シルエットクイズ・ぬりえを開催しました。

特別展「写真家が捉えた昭和のこども」

平成 30 年 7 月 6 日から 8 月 26 日の期間で開催しました。これは日本の写真史に名を残す写真家の作品を中心に、各地方で写真活動が続けた写真家が捉えたたくましく微笑ましい姿を含め、昭和のこどもたちの姿を展示しました。展示構成は省略させていただきます。関連事業は昭和の花巻ということで、併せて昭和の花巻の写真を展示し紹介しています。記念講演会として、盛岡歴史文化館館長の畑中さんをお迎えし、岩手と花巻の昭和と題し講演をいただいております。その他にはギャラリートークをしました。ワークショップは 5 回開催しております。昭和の子供というテーマでしたので、昭和の遊びをワークショップにしたかどうかということで、このような内容となっております。

テーマ展「花巻の遺跡」

平成 30 年 9 月 15 日から 11 月 18 日にかけて開催しております。花巻市内には約 1000 か所の遺跡が発掘されておりまして、花巻のディープな魅力を探りました。展示構成は書いてあるとおりになります。関連事業として、講演会がございました。「御所野遺跡と花巻の縄文遺跡からみえる縄文時代の暮らし」ということで、一戸教育委員会から菅野紀子さんをお招きしまして講演いただきました。その他に「稗貫・和賀地方における中近世城館の建築文化」ということで、八戸市博物館・日本建築学会会員の中村隼人さんをお迎えしまして講演をいただきました。その他には館長講座「花巻の遺跡」、市民講座、花巻の遺跡を巡るバスツアーを、主催は花巻市生涯学習課になりますがそれに同行し説明しております。

その他にはギャラリートーク、体験学習で勾玉・琥珀玉づくり・ミニチュア土器づくりを開催しております。その他展覧会図録としまして「花巻の遺跡」を発行しております。

#### 共同企画展「斎藤宗次郎―花巻時代の足跡―」

平成 30 年 10 月 8 日から 1 月 27 日の期間で開催しております。最初の調査研究でありましたように、斎藤宗次郎の日記を読みまして、花巻時代を中心に紹介したものになります。展示構成は書いてあるとおりになります。関連事業としまして、共同企画展のバスツアー、スタンプラリー、記念講演会「宗次郎の思い出〜3つのキーワード〜」と題しまして、児玉実英さんによる講演をいただきました。クリスマスコンサートも開催しております。

#### テーマ展「花巻人形〜菊池コレクションを中心に〜」

平成 31 年 2 月 16 日から 5 月 6 日にかけて開催しております。花巻人形に魅了されたコレクターの花巻人形を中心に紹介しました。展示構成は書いてあるとおりになります。関連事業としまして、館長講座、篠笛山口流演奏会、ミュージアムコンサート、ギャラリートーク、人形絵付け体験、ぬりえを開催しております。台焼展と同時開催になります。

#### テーマ展 同時開催「台焼〜受け継がれた業〜」

平成 31 年 2 月 16 日から 5 月 6 日にかけて開催しております。かつて大温泉で焼かれた湯ノ沢焼の窯を利用して始めた台焼を紹介しました。展示構成は書いてある通りとなります。関連事業としまして、ギャラリートーク、陶芸を体験しようということで、台焼の 5 代目杉村峰秀さんをお招きし、台焼を作る体験をしました。

### (4) 教育普及活動

#### 1 講座

館が主催する館長講座や学芸員講座、展示会に呼応した各分野の有識者による博物館講座などを実施しました。講座の一覧を載せております。後でご覧になっていたきたいと思います。体験人数が 1977 名の参加がありました。

#### 2 体験学習

市内にある縄文時代や古代の遺跡から発掘された出土品をもとにした生活体験、アクセサリー作り、花巻の伝統工芸の周知と継承を目的とした製作体験、子どもたちに人気の戦国時代の武具を活用した体験学習などを開催しました。表を参考にさせていただきたいと思います。参加がのべ 421 人となっております。

### 3 博物館実習

学芸員資格取得に係る館務実習を実施しました。平成 30 年 8 月 17 日から 8 月 23 日にかけて、2 名を受け入れております。

### 4 職場体験

進路学習の一環として、申し込みのあった市内中学校 2 年生の職場体験学習の受け入れを行いました。平成 30 年 7 月から 9 月までで、受け入れ中学校は西南中学校をはじめ、書いているとおりになります。

### 5 教職員との連絡会議・研修会

博学連携の効果的な方策の探究と市内各地域の歴史や文化の理解の促進のために、会議や研修会を実施しました。第 1 回会議平成 30 年 5 月 30 日、第 2 回会議平成 31 年 2 月 18 日に開催しております。先進地視察としまして、青森県立郷土館に博学連携について学びました。博学連携推進研修会を平成 30 年 8 月 2 日に開催しております。

続きまして資料の 18 ページ、石鳥谷歴史民俗資料館の事業報告になります。学校団体受け入れは、花北青雲高校、石鳥谷小学校の受け入れがありました。その他収蔵資料の貸し出しとしまして、はんでん、前掛けなどを貸しております。以上になります。この後入館者について説明いたします。

(事務局 滝浦)

### 11 博物館の入館者状況

資料の 17 ページ、平成 30 年度の博物館の入館者です。一番右下の欄になりますが、合計で年度内 18,072 人の方に来館いただきました。なお平成 29 年度は 13,950 人、28 年度は 19,192 人ということで、28 年度から 29 年度にかけては大体 5,200 人減りましたが、29 年度から 30 年度にかけての差を見ますと、4,100 人とまた増えているということで、企画展による部分も大きいとは思いますが、若干数字が動いているところです。

次は 19 ページになりまして、石鳥谷歴史民俗資料館の入館状況です。こちらも 30 年度月別で載せています。合計が 1,328 人となっております。29 年度は 1,261 人、28 年度は 1,430 人ということで、年度によって若干増減しています。

20 ページ目ですが、東和ふるさと歴史資料館につきましては、平成 27 年 4 月より休館いたしておりますので、入館者数の実績はございません。以上になります。

(佐藤由紀夫会長)

今ご説明をいたしました、事業報告について質問・ご意見を委員の皆さんにお願いいたします。

(阿部茂巳委員)

14 ページの博物館講座の「初めての古文書」についてですが、この参加人数は多いのでしょうか、少ないのでしょうか。低調なのでしょうか、どのように捉えたらよろしいのでしょうか。

(事務局 小原)

初めての古文書講座ということですので、前回受講した方は受け入れないことにしております。ですので、初めての方がほとんどでした。

(阿部茂巳委員)

どの年代の方が多かったですか。

(事務局 小原)

年齢は、50・60代が多かったです。60代・70代だったのかもしれませんが。人数は多い方だと思います。受講4回目が少なかったのは、他の回は順調に初回からの方が受講されていましたが、4回目が12月だったので雪が降っていたので足が遠のいたのだと思います。

(阿部茂巳委員)

花巻市史の編纂が少し噂に上りはじめておりますが、どういう方々が関わるかわかりませんが、考古学については館長がいらっしゃいますので岩手県の水準を超えるだろうと思いますが、中世・近世の研究となると、若い方々に原点資料による新しい市史などはなかなか地に着かないのではと危惧しています。やはり育てることが大切なのですが、講座を受ける方が50代・60代となると考えなければいけないと思います。不安な要素ばかりが付きまとうような気がします。佐藤教育長、何か手立てはないのでしょうか。

(佐藤教育長)

学芸員で古文書読める人ということで、今一生懸命、読める方ももちろん勉強はしていただいています。講座ですが、花巻に限らず今、古文書を読める人は非常に少なくなっています。場合によっては大学等のご協力をいただきながらと考えております。市史の方についてはいろいろ考え方はあるのですが、まだ方向性は固まっておりません。

(佐藤由紀夫会長)

古文書講座は連続でして、1・2・3・4・5でして、初めての、だから初めての方が対象で、登録されている方が12～13名と聞いております。

(阿部茂巳委員)

継続していただいてはどうでしょうか。2年、3年と続けていただき中級を設けるとか、どうでしょうか。

（事務局 小原）

中級は考えています。以前は中級もやっておりました、まずは初級編をやってもらい、次に中級編へ進んでいただけたらと考えております。

（阿部茂巳委員）

古文書講座は、古文書を読むだけでは駄目なのです。古文書に基づいて地域の歴史を研究するとか、そういったことをしないと面白くないのです。これはどの様に読むとか、これは原典をあたらないと困るとか、そういったことばかりやったのでは、楽しさを学習する、そういうものがないのです。古文書を担当する方が見識のある方で、その地域をプラスアルファで研究する、そういった欲を出せるような形でないと古文書講座は長続きしないと思います。

（佐藤由紀夫会長）

ご存じかもしれませんが、釜石でも古文書講座やっています。うちの学校に相談がありまして、うちの学校には近世の古文書を専門とする教員はいません。うちでは対応出来ないので、奥州市のうちの卒業生にお願いして、釜石に行っているのですが、紫波も今もやっているのは東海大学で教員をやっている者です。なかなか教える方も人材が不足しているので、方策を考えていかなければと思っています。

他にはいかがでしょうか。他になければ私から。

研究紀要が毎年出ていますが、今年の研究紀要は花巻城の研究ということで、高橋さんがご自分の研究テーマの中にも上げておられますが、2017年に特別展があつて、評判が良かった展示会と記憶しております。花巻城は、私の記憶が間違っていなければ報告書は以前から出ておりますが、論文としてまとまったものが、そう沢山は承知していなくて、私が近世の住宅を専門としていないので承知していないだけかもしれませんが、貴重な研究だと思います。特に博物館の場合は展示と研究とのタイアップが極めて重要ですので、こうした形で興行される、もしくは研究の成果をまた展示に活かすというようなことで、今後も進めて行っていただければと思います。その後ろの渡米記録についてとは学芸員の方ではないようです。この方はご自分から投稿したいとおっしゃったのか、こちらからの依頼原稿なのか、どんな形で紀要の原稿は執筆を学芸員以外の方にはお願いしているのか、ちょっと気になったものですから、教えていただけないでしょうか。

（事務局 小原）

花巻に関わる内容であれば、寄稿を受け入れています。前教育部長に寄稿していただきました。

(佐藤由紀夫会長)

こちらからの依頼ですね。わかりました。あと、これは可能であれば目次は英文にされて、後ろのところに載せるなど、花巻くらいの規模ですと、外国人の方も気にして、例えば花巻城の研究も気にされる外国の方もいらっしゃるでしょうから、目次くらいは後ろに検討されてはいかがでしょうか。もちろん一番大切なことは真意ですけど、外に向けて、目次はそんなに費用がかかるわけではないですし、論文タイトルを英語にするのはそんなに大変ではないですし、ご本人にやってもらってもかまわないと思うのでご検討いただければと思います。

(阿部茂巳委員)

報告書ではなく紀要なので、そのくらいは必要でしょう。

(佐藤由紀夫会長)

他にはいかがでしょうか。

(阿部茂巳委員)

20 ページの東和ふるさと歴史資料館は、新しく工事が始まっているようですが、見通しなどお分かりでしたらお聞かせいただきたいのですが。

(事務局 晴山)

東和コミュニティセンターのお話だと思うのですが、今工事中で 11 月 10 日開館予定とうかがっております。11 月 10 日は日曜日だったと思います。その中に、東和ふるさと歴史資料館は今休館中でございますので、収蔵している物を一部、全部は持って行けないところもございますので、ふるさとコーナーで展示する予定になっております。11 月 10 日開館でございますので、その前には設置して開館を迎える予定です。

(阿部茂巳委員)

わかりました。ふるさと歴史資料館の名前ですが、これは、ふるさとの名前を当時の教育長がえらく固執しまして、なんとしても入れたいということでふるさとを入れた経緯があります。資料館がふるさとを名乗っているのは遠野にもありましたでしょうか。どうでしょうか、ふるさとは遠くにありて思うものでして、先ほど館長が施設のあり方を説いていらっしゃいましたが、こういった施設は地域住民のために第一義にあるものと私は思いますし、内容もあるべきだと思います。ふるさとを遠くから思う人の為にも必要だと思いますけど。このふるさとという言葉は遠野の柳田国男の関係で良いと思いますが、遠野の隣の東和は一字違いですけど、どうも似つかわしくないのではと思うのですが。それと石鳥谷の歴史民俗

資料館ですが、花巻市の中で整合性を考えるといかがなものかと思います。それと、テーマが祈りと信仰となっておりますが、これも当初からのテーマではありませんでした。後で館長がテーマを決めました。したがって、展示内容が祈りと信仰の 2 つのテーマとしての展示内容は全くなっておりません。あれもこれもと総合的な展示内容です。祈りと信仰というテーマであれば展示替えをするべきだと思います。このようなことは地元の方々の意見も必要だと思いますが、戯言みたいなものと聞き流していただきたいです。

（事務局 晴山）

ご意見として承りたいと思います。

（畠山義範委員）

一つお聞きしたいのですが、嶋二郎さんが大矢先生に庚申信仰の資料を差し上げて、掛け軸などの資料を、今度博物館に収蔵されたと思うのですが、それを研究して発表する予定はないのでしょうか。

（事務局 小原）

資料というよりは本です。本は記憶にあるのですが掛け軸は花巻市博物館ではいただいていないです。数はいますぐには出てこないのですが、かなりの数の本が入っております。

（畠山義範委員）

花巻から北海道まで調べた資料なので、是非学芸員だけではなく一般市民の方々にも見せてほしいと思います。計画を立ててひとつお願いしたいと思います。

（佐藤洋子委員）

教育普及活動の出前講座ですが、小学校では市内の小学校 3 年生が昔の道具という講座名で出前講座に出向いているようですが、中学校は宮野目中学校の 3 年生が花巻空襲だけですよね。中学校からは要請がないのでしょうか。

（事務局 小原）

小学校は授業として昔の道具がございまして声をかけていただくのですが、中学校となるとなかなか時間を取ることができず、宮野目中学校さんだけとなっています。

（佐藤洋子委員）

なんだか残念ですね。

（阿部茂巳委員）

カリキュラムの中に入っているんですね。

(事務局 小原)

小学校3年生は入っています。

(事務局 晴山)

小学校3年生はカリキュラムに入っておりますし、小学校2年生は確か図書館授業という部分になります。中学生となると、職場体験という時間があるようで、当館についても先ほどご説明した通り、中学校6校、7校くらい受け入れているという状況にはなっております。実は今日、花北青雲高校インターンシップ、要は職場体験、花北青雲高校の生徒4名を今日受け入れておりまして、今の時間学芸員の仕事の見学をさせていただいております。

(佐藤洋子委員)

入口で掃除をしていた子たちですね。

(事務局 晴山)

今環境整備をしている子もいます。そういう形で今日1日受け入れをしております。

(佐藤由紀夫会長)

他にはよろしいですか。

よろしければ議事の(2)令和元年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 小原)

お渡ししました資料の1枚の、令和元年度花巻市博物館事業計画(展示・教育普及)ということで説明させていただきます。展示活動事業ですけれども、既に終了しましたが、チベット仏教研究者の「多田等観」を開催しました。現在は特別展「発掘された日本列島2019」を開催しております。9月24日から11月17日にかけて、収蔵資料展「どうぶつ集合!」ということで、動物が描かれた資料を中心に当館所蔵の資料を紹介するものになります。共同企画展「ぐるっと花巻・再発見!松川滋安と揆奮場」と題しまして開催します。2月15日からは「花巻人形展」を開催いたします。

次、教育普及事業になります。館長講座3回、展覧関連講座4回、古文書講座5回、こちらも初心者対象となっております。その他体験学習としましては、勾玉づくり2回、琥珀玉づくり2回、縄文弓矢・火起こし1回、花巻人形絵付け2回、ミニチュア土器づくり1回、プラ版キーホルダーづくり1回を開催いたしました。ほとんど終了しております。

(3)博物館実習としまして、学芸員資格を取得するための実習生を受け入れが今度の土曜日8月31日から9月6日、3名の受け入れをします。以上、教育普及事業として報告いた

します。

（佐藤由紀夫会長）

ありがとうございました。

では今の事業計画におきまして、ご質問ですとかご意見をいただきたいと思います。

（阿部茂巳委員）

先ほどの古文書講座ですけども、初級じゃなくて中級なども継続的にやるようなそういう計画を立てられたらいかがでしょうか。すぐにはできないと思いますけれども、継続という事が非常に大切だろうと思いますので、そういうような計画も是非お願いいたします。

（事務局 晴山）

はい。承知しました。

（佐藤由紀夫会長）

他にはいかがでしょうか。

（平野榮一委員）

収蔵資料展「どうぶつ集合！」という資料？ぱっと思いつくのは花巻人形くらいなんです。

（事務局 小原）

はい。花巻人形もちろん出ますし、掛け軸なんかにも犬や猫他には鳥なども多く描かれていますので、そういった資料を中心に紹介いたします。

特別展示としましては、鷹頭御陣太刀と鳳凰御陣太刀を紹介いたします。動物にまつわるものが本当に沢山あるということでそれをテーマにしました。

（平野榮一委員）

意見として、収蔵資料展とざっくりした言い方のどうぶつ集合と。ピンとくるように例えばこれをポスターなりパンフレットなどで読んだ時に、何なのかとイメージ出来るようなサブタイトルの的なものがあればいいのかなと感じました。

（事務局 晴山）

ありがとうございました。実はポスターチラシは既に発注済でございまして、今後こういう企画をする場合には、そういうイメージをしていただけることにも配慮しながら作って参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

(佐藤由紀夫会長)

他にはいかがでしょうか。

(浅沼昭男委員)

「ぐるっと花巻・再発見！」毎年実施してると思いますが、共通のテーマか何かで他の方では開催するのか、わかりましたらお聞きしたいです。

(事務局 小原)

ぐるっと花巻は、花巻の先人を紹介することをテーマにしまして、新渡戸さんでは島善鄰だったかと思いました。そして、高村光太郎記念館でも開催しますけれども、そのテーマはわかりません。文化財センターでも開催します。こちらすみません、わかりません。

(浅沼昭男委員)

先人を対象にしてそれぞれやるということで、4か所巡ると何か差し上げますということ、多く回ってもらうための施策だと思いますが、そういった事を記憶しておりましたので、出来るだけ関連性を付けて実施していただければ有効なのかなと思いましたので、連携をひとつよろしく願いいたします。

(佐藤由紀夫会長)

他にはいかがでしょうか。

(佐藤 努委員)

中学校の方で教材で色々使えるものとして、例えば甲冑とか何か土器でもいいんですけども、貸し出し一覧みたいなものがあれば沢山貸してくださいという需要があるような気がするのですが、そういった資料みたいなものが可能であれば学校に今後配布してくれればありがたいなと思います。

(事務局 小原)

わかりました。

(佐藤勝教育長)

出前出来るもののメニューを作って提示すれば多分、学校ではそういうものもそうでしょうし、学芸員さんが行って話をする。例えば縄文であれ弥生であれ戦国であれ蝦夷であれ、という意味ですね？そういった物と人でのメニュー。博物館の方では、学校でどれだけのどういうニーズがあるのかがわからない。ただそこは博学連携のまさに知恵を出してもら

えればありがたいなと思います。

（佐藤由紀夫会長）

かつて私が関連した博物館では、この博学連携の委員のような委員会を置いておまして、その教員の方と学芸員が一緒になって、例えば中学校の社会科の歴史の授業の単元に合ったようなセットを作る。縄文土器と例えば石器と何かの組み合わせでお貸し出来る様な物。当然の事ながら、学芸員が借りていくわけではないので破損ということもあるので、破損しても代替がきく、若しくは破損しないという資料の制限もありますけれども、セットを作っていてそれをそのままお貸しして授業の中で活用していただけるということをやっておりました。出前講座ですとこちらの学芸員が行ってやると。こちらの方も大変ですし授業1コマ分学芸員が担当するとなりますので、学校の方でもそれだけの時間を取るのが中学校ではなかなか難しいのかもしれないので、参考にしていただければと思います。セットを作って貸し出ししやすいような。そして博学連携の委員の先生等々一緒に相談しながら作ってその情報を各中学校に公開をして、結構ありましたね。江戸時代のものも、例えば農具ですとかそうした物を借りに来る先生ですとか、なかなか中学の先生は忙しくて借りに来るのも大変だと思うので、また返しに来なければなりません。取り扱いも注意してもらわなければいけません。その辺もネックにはなると思うのですが、参考にしていただければと思います。

他にはいかかでしょうか。

（畠山義範委員）

ちょっと話が違いますが、昭和の写真。この中にある花巻の内村さんという方。写真家。今の義夫さんのお父さん。あの方は花巻では色んな写真撮って昭和から大正にかけての写真展、図書館で展示したんですが、そういうのをやるというのはいかがでしょうか。

（事務局 小原）

内村さんは、萬鉄五郎記念館で展示してまいした。

（畠山義範委員）

それを博物館でもやったらいいかなと。

（佐藤勝教育長）

人物を写した自分でやった芸術のものは萬のほうで

（畠山義範委員）

ええ、でも一般のものも結構あります。ああいうものも活かして欲しいなと思います。

(事務局 小原)

承知しました。

(佐藤由紀夫会長)

他には事業計画についてはいかがでしょうか。

よろしければ(3)のその他に移っていきたいと思います。事務局及び委員の皆様からその他としてご意見かご質問があればお願いいたします。

(事務局 晴山)

事務局はその他についてはございません。

(佐藤由紀夫会長)

はい。委員の皆様はいかがでしょう。

そうしましたら、私から1つ伺いたいことがございます。博物館の昨年度のこと業報告ですね、令和元年度のこと業計画とは直接は関係しないことですが、文化財保護法がこの4月に改定されて施行されております。各市町村が地域計画を作成すると、これは作成を絶対しないといけないわけではないわけですが、県が会報を作ってそれに基づいて地域計画を作って、その地域計画に基づいて文化財の活用を行っていくということで、かつては知られていなかった、今までは知られていなかった資料を掘り起こすとか活用ですとか、そうしたことに係る計画を作るということが望ましいというような形で法のなかで規定をされております。県の方は動き始めているのは承知しているのですが、花巻市さんの方では特にこうしたことはですね、博物館法とは直接関係なくても博物館法と文化財法は並んでいる法律ですし、文化財保護法のこうした部分というのは今後の博物館のこと業に当然ながら文化財の保存と活用ということで当然深く関わってくることです。このあたりの方向性がどうなっているのか、教えていただければというふうに思います。

(事務局 晴山)

資料を準備しましたので、今お配りしますのでご覧いただきたいと思います。私の手元にあった資料の中で、わかりやすいかなということでスキーム、イメージ図概要と言いますかこの部分を取ってきましたのでお渡しします。これが一番わかりやすいのかなと資料の中で思いましたのでコピーさせていただいてきたのですが、今佐藤会長さんからお話のとおり、今年度の平成31年4月1日文化財保護法改正で、過疎少子化高齢を背景に文化財の散逸等の防止そして文化財で未指定の文化財等を利用した街づくり、そういう部分に取り組んでいくのは必要ではないかという事で、地域における文化財の計画的な保存活用の促進

や地方文化財保護行政の推進力の強化をはかる事を目的に、県では大綱を作るということになって今年度動いているそうです。実は花巻ではその大綱を受け、今年の 6 月に実は地域計画を策定する委員会が開催になりました。実はこの委員会でございますが、総称する事務局は教育委員会の文化財課ということになりますけれども、委員さんが市内各部署から市役所は勿論ですけれども観光関係や 10 人ぐらいの委員さんが委嘱を受けまして、今後 4 年間の中のうちで計画を立てていくということで今年初年度、今現在、地域の文化財の掘り起こしということで、8 地域振興センターを回ってワークショップを開催して、文化財の掘り起こし、まだ知られていない地元の方々が知っているような文化財を掘り起こして、その部分の保護なり今後どう活用していくかそれを検討していくということになっておりまして、実は先週の金曜日矢沢振興センターで地域の文化財を掘り起こしするというので、ワークショップが開催されまして私もお邪魔してきました。なかなかやっぱり現状、地域の貴重なもの、そういうものというのはなかなか活発に出てくるような形ではなかったんですけれども、ただ昔のそういった行事とか、例えば、火防祭的なものがあったのかどうか、矢沢の部分でも火防祭的なものは地域によっては、やっぱりやっていたという発言もありましたし、ここに碑石があるけどこれは何だろうという話も出ましたし、そういった部分の話も出ました。結果を文化財課の方でまとめて、それをどういう形で計画に盛り込んでいくか今後検討しながら策定委員会との協議を経て計画していきたいというような状況となっております。

(佐藤由紀夫会長)

わかりました。館も当然ながら文化財の活用を進めてとは思いますが、タイアップしながらそうしたことを進めて出来るだけ花巻市の文化財法が活用されて、かつ、きちんと将来に保存されていくようにしていただければと思うのと、またこうした協議会の機会に報告をいただいたり、他の件についてもですが、地域計画が定まればそうしたものもいただいてこの館との活動との関係も議論していきたいと思います。あと、こうした形で国が地域計画のことを提案する前から、一番進んでやっていたのは鹿児島県の奄美市です。鹿児島県の奄美市の教育委員会、特に博物館が中心になって、地域に入って地域の資料を掘り起こしている、文化財指定も県もそうですが、行政の中だけで文化財指定を行っている部分が多いのですが、奄美市の場合は下から提案をしていただくという形でやっておりました。中心になって行っていた方々が 4～5 年前に亡くなってしまう、今どうなっているか、私が 4～5 年前に視察で、考古資料の調査と絡めて話を伺いに行ったのですが、ネットで調べればきっと出てきますので、奄美の取り組みを文化庁が言う前から先進的に早い時期から取り組んでいるところですので、調べてみると参考になることがあると思います。

では、他にはありますでしょうか。なければこれで議事の方は終了して司会を事務局の方にお戻しいたします。

(事務局 晴山)

はい、ありがとうございました。それでは、4.その他とございますが、皆様方から何かございましたら。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして令和元年度第 1 回花巻市博物館協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。